

宗内寺院紹介 67

四国教区第一部

補陀落山 長尾寺



①



③



②



⑤



④

- ①本堂 ②大師堂 ③静御前剃髮塚
 ④経幢(東) } 仁王門の門前にある。二基ともに国の重要文化財
 ⑤経幢(西) }

※経幢(きょうどう)は経を書いて供養し納めた幢である。
 当経幢建立のいわれについては種々説があるが、弘安の役直後のことであり、この役
 に出兵した讃岐将兵の霊を供養するために建立されたとされる説が有力である。

寺伝によれば、当山は天平十一(七三九)年、行基が柳の木で聖観音像を彫り安置したのが始まりとされる。その後、弘法大師空海が唐から帰朝し当寺を訪れ、天長二(八二五)年、堂宇を建立し真言宗寺院となり、四国八十七番札所として定められた。しかし後の戦乱により本尊を残して焼失したが、慶長年間、国守生駒一正により再興された。さらにその後、高松藩初代藩主、松平頼重公が堂塔を寄進し、元禄二(一六八一)年に藩命により真言宗から天台宗に改宗した。当国七観音隨一に指定、現在の堂塔、仁王門、御成門等、元禄七(一六九四)年に造営され現今の基礎が固められた。また、源義経と惜別した静御前が当寺にて得度したと伝えられ、境内に剃髮塚がある。日々法燈、香煙絶ゆる間なく今日に至っている。

四国教区第一部
 補陀落山 長尾寺

住 所 / 〒769-2302 さぬき市長尾西653
 電話番号 / 0879-52-2041